

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：22702

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25862100

研究課題名(和文)患者および医療者からの評価に基づいた治療・検査場面における看護行為の検証

研究課題名(英文)Verification of nursing behavior in treatment and examination scenes based on evaluations from patients and medical personnel

研究代表者

門馬 靖武(MONMA, Yasutake)

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・講師

研究者番号：80571538

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：治療や検査場面における看護行為の実態を明らかにし、その看護行為に対する患者および医療者評価との関連を検証し、より適切な看護実践の提言を行うことが目的である。そこで、臨床看護師を対象とした非参加型観察法にて、治療や検査場面における看護行為を質的方法により分析・抽出し、第三者による評価と看護行為の種類や行為数との関連を、統計学的手法により検証した。結果、「共にいる」「共働する」「情報を提供する」の看護行為を行う者の方が、看護行為に対する評価は高いという関連が認められる傾向にあった。今後は対象数を増やして再解析を行うことで、研究成果の一般化に至る余地がある。

研究成果の概要(英文)：The aim is to clarify the actual condition of nursing practices in treatment and examination situations, to verify the relationship with patients and medical evaluators for nursing behavior, and make recommendations for more appropriate nursing practices. Therefore, in a non-participatory observation method for clinical nurses, nursing practices in treatment and examination scenes are analyzed and extracted by qualitative methods, and the relationship between the evaluation by a third party and the type of nursing acts and the number of actions were verified by statistical methods. As a result, there was a tendency to recognize that a person conducting a nursing act of "being with," working "cooperating" and "providing information" had a high evaluation on nursing behavior. In the future there will be room for generalization of research results by reanalysis by increasing the number of cases.

研究分野：Nursing

キーワード：ケアリング 看護行為 看護実践国際分類 ICNP 看護の質検証

1. 研究開始当初の背景

意識下（局所麻酔など）で侵襲的な治療や検査を受ける患者には、不安や苦痛の経験があることをこれまで複数の研究者が言及している（水口ら 1988 年、末澤ら 1999 年、水城ら 2001 年）。このような場面において、看護師は職務として保健師助産師看護師法（昭 23.7.30 法 203）の第 5 条にあたる「診療の補助業務」を行う役割を担い、治療や検査を行う医療者に対する診療の介助のみならず、患者に対するケアが求められる。このうち、診療の介助に問題がある場合は、医療安全上の観点から医師や周囲の医療者からのフィードバックが看護師に行われる。しかしながら、患者に対するケアの評価は容易ではなく、看護師が行う看護行為を検証した研究はみあたらない。

そこで今回、局所麻酔下での治療や検査場面における看護実践の実態を明らかにする。さらに、行われた看護行為の評価を患者ならびに医療者の視点から行い、実践された看護行為とその評価との関連を明らかにすることで、場面に応じた適切な看護実践の提言を行うことを目的とする。

平成 25、26、27 年度は、臨床看護師を対象とし、観察法を用い、治療や検査場面の看護行為について質的方法により分析・抽出し、看護行為の実態を明らかにする。平成 28 年度は、観察法で得た動画データを患者および医療者が閲覧し、評価を行う。評価を尺度化して従属変数とし、看護行為の種類や数を独立変数として、両者の関連を統計学的に検証する。研究成果から適切な看護実践方法を、論文やホームページ等により提言する。当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義について、これまで、看護実践の実態調査として多くは看護業務の分析であり、本研究課題にて望まれる成果は得られていない。また、看護行為に対する評価は一般的に同職（上司など）の認

識に基づいて行われており、実際の臨床現場にて関わる患者や医療者にも求めた研究はまれである。今回、観察法により動作レベルで客観的に看護行為の実態を明らかにし、患者および複数の医療者からの評価に基づいた検証がなされる試みは独創的であり、得られる看護行為の示唆は具体的なものである。今回の研究成果は、意識下で侵襲的な治療や検査を受ける患者への対応として臨床応用も可能であり、卒前教育および継続教育上での教育および患者が受ける看護の質確保に資するものである。加えて、診療の補助業務として看護師が治療や検査場面に配置されることの必要性や役割を言及する上でも有益な基礎資料になりうる。

2. 研究の目的

意識下で侵襲的な治療や検査を受ける患者の不安や苦痛に対し、看護師が行うべき看護行為は検証されておらず、患者が受ける看護の質が確保されていない可能性がある。本研究では、治療や検査場面における看護行為の実態を明らかにし、その看護行為に対する患者および医療者評価との関連を検証し、より適切な看護実践の提言を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、以下 3 つのアプローチにより、目的を達成する。

研究方法①：臨床看護師を対象とした非参加型観察法にて、治療や検査場面における看護行為を質的方法により分析・抽出し、看護行為の実態を明らかにする。

研究方法②：明らかにされた看護行為について、多面的な評価を行う。

研究方法③：評価と看護行為の種類や行為数との関連を、統計学的手法により検証する。研究方法①について

対象：施設の看護管理者が、本研究の趣旨を理解した上で推薦する臨床看護師。対象と

する患者の選定に際し、看護診断として主疾患以外の問題が挙げられていないこと、および看護歴聴取場面に参加し ADL や会話や意思疎通に問題のない患者とする。

データ収集方法：IC レコーダーとビデオカメラを用いた非参加型観察法にて、侵襲的な治療や検査 10 場面（消化管・気管支鏡検査、心臓カテーテル検査、中心静脈穿刺カテーテル挿入、局所麻酔下での手術場面など）の言語的データ・非言語的データの収集を行う。言語的データは、ビデオカメラおよび IC レコーダーにて対象者全員の発言を収集し、得られたデータの逐語録を作成する。非言語的データは、ビデオカメラにて動画データを収集する。研究者は非参加型の観察者として治療進行に関する状況などを観察ノートに書き留め、データの一部とする。

データ解析方法：行われた看護行為を明らかにするためにカテゴリーシステムを用いた内容分析を行う。カテゴリーシステムを用いることは、分析操作がより客観的・系統的になり、科学的妥当性が高まるとされている

(Denise F. Polit, 2010 年)。研究に特有の必要性や理論的枠組みに基づいて独自のカテゴリーシステムを開発することもできるが、研究問題に対応しているならば完成度の高い既存のカテゴリーシステムを用いる方がよい。看護行為を分析するカテゴリーシステムは複数あるが、看護の目的(名詞)ではなく、看護行為によって遂行される行動(動詞)が表現可能な ICNP® (看護実践国際分類)を採用することで、具体的な行為レベルで示唆を提言することができる。なお、看護行為の分析過程において、スーパーバイズを受ける。研究方法②③について

対象：評価対象とする治療・検査を受療した経験のある患者および、評価対象とする治療・検査の臨床経験がある医療者（看護師、医師）、また患者の視点を日頃から学ぶ模擬患者研究会に所属する者。

データ収集方法：観察法にて収集した動画を対象者が閲覧し、看護師の行った行為について評価する。評価方法は NOC(Nursing Outcome Classification)等を参考として研究者が独自に作成した各項目（自分が患者としてこの看護師に看護を受けたいか、看護師は適切なケアを行っていた、など）について、4 段階（そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない）のリッカート尺度により選択する方式とする。

データ解析方法：評価を点数化して従属変数とし、看護行為の種類や数を独立変数として、両者の関連を主にロジスティック回帰分析による多変量解析の統計学的アプローチにより検証する。評価に関連する看護行為を特定し、適切な看護実践について提言する。倫理的配慮

研究の実施にあたり、対象者・施設に対する研究の自由参加および匿名性の確保に配慮するため、対象者・施設に文書で研究計画および参加しないことでの不利益がないことを説明した。動画データについては、対象者の顔にモザイク処理をした後で解析を行い、評価データとの連結可能匿名化による管理を行った。データ流出防止を図るため、データは鍵のかかる場所ないし暗証番号で管理されたパソコンに保存した。

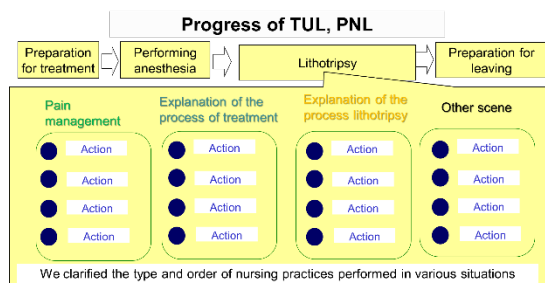
4. 研究成果

研究方法①についての成果

苦痛や不安を伴う治療の一場面として、経尿道的尿管碎石術 (Transurethral ureterolithotripsy, 以下 TUL とする)、経皮的腎碎石術 (percutaneous nephrolithotripsy, 以下 PNL とする) の術中における看護行為の実態を試行的に明らかにした。これらの術式は、尿路結石症診療ガイドライン (日本泌尿器科学会編) における治療法の一つである。一般的に成人では局所麻酔下で行われ、ある一定の治療経過を経て進行される治療であるが、

結石の状態や出血・疼痛の程度など患者の状態に応じて治療経過が異なる (Fig.1)。そのため、患者の不安による精神的負担、あるいは体動制限や術者の操作に付随する疼痛などの身体的苦痛が予測される場面である。

<Fig.1: Progress of TUL, PNL>



患者 10 名の治療場面をビデオ撮影し、それぞれの場面での看護行為を、ICNP® (Internatinal Classification of Nursing Practice : 看護実践国際分類)にて解析した (Fig.2)。

<Fig.2: ICNP® is a tool for describing nursing practice>

Action type	Number	Action
Determining	29	Monitoring, Checking, Evaluating, Interviewing, etc.
Managing	59	Authorizing, Completing, Distributing, Leading, etc.
Performing	72	Changing, Inserting, Cleaning, Positioning, etc.
Attending	52	Presencing, Reinforcing, Motivating, Collaborating, etc.
Informing	15	Explaining, Teaching, Guiding, Describing, etc.

このうち、採石の場面で行われた看護行為を明らかにした結果、行為(Action)別に、頻度の高い順から、判定する(Determining)、世話をする(Attending)、情報を提供する(Informing)、管理する(Managing)、実施する(Performing)、が行われていた。中でも世話をする(attending)については、共にいる(Presencing)、動機づける(Motivating)、共働する(Collaborating)、強化する(Reinforcing)、慰める(Comforting)、励ます(Encouraging)といった看護行為から、看護実践(nursing practice)が成り立っていた。研究方法②についての成果

治療後、患者をケアした看護師を対象としてインタビューを行った。インタビュー項目は、1.「あなたにとって看護とは」、2.「今

回のケアに際して心がけたこと」、3.「あなたや患者にとって良かったと思われる話し方や行動について」とし、対象の看護師が看護の本質として大切だと認識した場面について、看護行為の種類と順序を明らかにし類似性と差異性により質的帰納的に分析を行い類型化した。

結果、対象の看護師に対し、合計約 240 分のインタビューが行われた。看護師は TUL,PNL において、「碎石の治療中の疼痛への対応」「治療中の碎石状況についての説明」について、看護の本質の一部を見出しており、今回はこの 2 場面における看護行為を明らかにすることとした。この 2 場面は、Carol Leppanen Montgomery が述べたケアリングの行動における 8 つの特性※に合致した場面であった。碎石状況の説明場面では、義務的な患者の要請を超えた「かかわり※」と、現況と先の状況を伝えることで「肯定的な意味と希望の創造※」がなされ、また疼痛へ対応した場面では、患者の「擁護※」ならびに患者と「共にあること※」が看護師のケアリング行動として表れていた。

行われた看護行為の種類や順序は、状況によりいくつかのパターンに分類された <Table.1-5>。痛みの状況やバイタルサインなどを確認するための「観察する」は全ての看護師が行っていたが、「世話をする」(患者の傍に近寄って手を握る、患者の疼痛部位に触れる、慰めの言葉をかけるなど)、あるいは「情報を提供する」(治療の進捗状況を患者に説明する)などを「観察する」に加えて行う者もいた。看護師によって行われる看護行為に差異があることが明らかとなった。一方、患者が疼痛を訴えているにもかかわらず、「記録」してからモニターなどを確認しただけの看護師がいた。このことは、患者が受ける看護の質に差が生じている可能性が示唆されることから、行われた看護行為と第三者評価との関連を明らかにすることが看護行

為を評価する視点として有用であることが示唆された。

<Table.1: Explanation of the process of treatment>

Action type	Nursing action	N
①Informing・Attending	[Explaining][Presencing]	9
②Informing	[Explaining]	8
③-⑤ Informing・Attending	[Explaining][Presencing][Reinforcing]	3
	[Explaining][Presencing][Motivating]	2
	[Explaining][Collaborating][Reinforcing]	2
	[Explaining][Collaborating]	1
	[Explaining][Collaborating][Motivating]	1
	[Explaining][comforting]	1
	[Explaining][Collaborating][Reinforcing][Comforting]	1

<Table.2: Explanation of the process of lithotripsy>

Action type	Nursing action	N
①-⑤ Informing・Attending	[Explaining][Presencing]	6
	[Explaining][Collaborating]	5
	[Explaining][Presencing][Motivating]	4
	[Explaining][Collaborating][Motivating]	4
	[Explaining][Interpreting]	3
	[Explaining][Presencing][Encouraging]	1
	[Explaining][Encouraging]	1
	[Explaining][Presencing][Comforting]	1

<Table.3: Pain management (When sued by a patient) >

Action type	Nursing action	N
①Determining・Attending	[Monitoring][Measuring] [Presencing]or[Comforting]or[Reinforcing]	7
②Determining → Informing to a Dr.	[Monitoring][Measuring][Interpreting] →[Explaining]	2
③Determining・Attending・Informing	[Monitoring][Measuring][Interpreting] [Presencing][Explaining]	1
④Determining	[Monitoring][Measuring]	1
⑤Informing → Determining	[Recording] →[Monitoring]	1

< Table.4: Pain management (When a nurse notices) >

Action type	Nursing action	N
①Determining	[Monitoring][Measuring]	8
②Determining・Attending	[Monitoring][Measuring][Presencing][Comforting]	2
③Determining・Attending・Informing	[Monitoring][Measuring][Interpreting] [Presencing][Comforting][Explaining]	2

< Table.5: Pain management (When a doctor notices) >

Action type	Nursing action	N
①Determining	[Monitoring]	1
②Determining・Attending	[Monitoring][Presencing]	1

研究方法③についての成果

当初、評価対象者に、対象とする治療・検査を受療した経験のある患者を含めたが、苦痛の場면을想起させることによる心理的影響を考慮し除外した。したがって、対象とする治療・検査の臨床経験がある医療者（看護師、医師）、また患者の視点を日頃から学ぶ模擬患者研究会に所属する者を評価対象者

とした。TUL、PML の治療場面の動画を対象者が閲覧し、自分が患者としてこの看護師に看護を受けたいか、看護師は適切なケアを行っていたか、について4段階のリッカート尺度により評価した。評価点数を中央値により2群に分けて従属変数とし、行われた看護行為の種類を独立変数として投入し、両者の関連を二項ロジスティック回帰分析による多変量解析の統計学的アプローチにより検証した。結果、統計学的に有意な関連をしていた項目は「共にいる(p=0.033)」「共働する(p=0.042)」「情報を提供する(p=0.047)」であり、それぞれの看護行為を行っている者の方が、看護行為に対する評価は高いという関連が認められる傾向にあった。しかしながら、対象数が限られており、解析結果の一般化にまでは至らないと考える。今後は対象数を増やして再解析を行うことで、研究成果の一般化に至る余地がある。

<本研究の限界>

当初、局所麻酔下での治療や検査場面における看護実践の実態を明らかにする目的でTRL や PNL 以外の症例も対象とする計画を立案していたが、データ収集における対象施設の確保に苦慮したため限られた症例における成果となった。なお、研究成果の報告記載は本報告書では限界があるため、本研究にて明らかとなった看護行為のローデータおよび統計解析結果の詳細は、研究成果公表用のホームページにて公開予定とする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計3件)

①Yasutake Monma, Nursing actions and caring behavior towards patients during invasive procedure under local anesthesia, International society of caring and peace、2017.3.25、

(Kurume, Japan)

- ② 門馬靖武、東日本大震災において看護職が実践したケアリング行動を明らかにする
試み、日本看護研究学会、2013.8.22、秋田県民会館（秋田県・秋田市）
- ③ 門馬靖武、データを使った看護と看護研究の質向上をめざして-看護行為を明らかにすることでみえてくるもの-、看護経済・政策研究学会第14回研究会、2013.11.30、東北大学医学部（宮城県・仙台市）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

<http://plaza.umin.ac.jp/monmon/25/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

門馬 靖武 (MONMA, Yasutake)

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・講師

研究者番号：80571538

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

井戸田 一郎 (ITODA, Ichiro)

しらかば診療所・院長

研究者番号：40318027